現代版・夫唱婦随で作る着心地満点のメンズ服

TATUO & MASUMI NAKANO

Designer

はじめて顔をあわせたのは、二人が同じ某大手アパレルメーカーの社員デザイナーとして仕事をしていたときだった。自分のセンスは反映されないし、ブランドイメージにそった製作、量産、ついて回る数字…。職場はそれぞれに違ったが、奇しくも二人そろって企業デザイナーにつきものの悩みを抱えていた折も折だった。「こんな状態でデザインすることに罪悪感をおぼえ、もうファッションの世界は嫌だ」とまで思うに至った二人は、また運命のいたずらか偶然ヨーロッパへ。真澄さんはフランスへ、達夫さんはイタリアへと旅立った。

ファッションの世界を離れてはみたものの、目につくのはブティックや生地屋さんばっかり。日本だと一巻単位でしか売ってくれない生地が m単位で買えるとか、マンションメーカーがたくさんあってかなりミニマムでの服作りもされているとか、そんなことばかり気になった。そんな考えをお互いがめぐらせていた頃、あの広いヨーロッパで二人は偶然出会う。まさに運命的。異国の地で見聞きしたことを堰を切ったように話し合ううち「おかしさがこみあげてきて笑っちゃった。結局私たちには服作りしかないじゃないっていうことがわかったから」である。

帰国後二人は考えた。自分たちの作りたい服を育ててゆくには東京はあまりに忙しすぎると。情報過多で、少しでも流れから離れると、ものすごく取り残されたような気がして、焦りや不必要な孤独感を感じることは目に見えている。二人のペースで暮らし、自分たちの考えをストレートに反映させる服作りがじっくりとできる所はどこだろうかと。「私が大学時代を過ごした京都に行こうよ」と真澄さんが提案。「そうだなあ、あそこはいわば職人の町だから、僕たちの想いを、ものを作る立場から理解してくれる人もいるかもしれないな」と達夫さん。話はまとまった。北区のまた田畑が残る静かな住宅街の一角に建つユニークな建物を確保。アトリエ兼営業所兼自宅としてスタートをきったのである。

まずメンズのジャケットとパンツを提案。ユーザーのトランキライザー(精神安定剤の意味)になりたいとの思いから、ブランド名はTRANK MARYに決定。「今までのメンズファッションてサラリーマンのスーツに代表されるようなユニフォームっぽいものか、芸能人が着ているようなとても素人には着こなせないような作りすぎたものばかりだったと思うんです」と達夫さん。「だから作り手の思いを出しすぎない、着る人を自然と引き立たせる服を作りたかった」と真澄さん。本当に職人に徹する服作りを念頭に置いてデザインをおこしてみたのである。

カラーは黒に紺、ブラウン系など優しいアースカラーが中心。縫製にはとくに気を使っており、ジャケット一着に仕立て屋さんが2日がかりで作るということこだわりよう。動きやすくて機能的で、着ている人の歴史を引き出すように随所に工夫が凝らしてある。30代の仕事に面白みがましてきた充実の世代に着こなしてほしいから、サイズ設定も従来より一サイズ以上大きくしたり長めにしたり。「おじいさんが着ていた仕立てのいい古着がイメージなんです」と二人。上質の生地をたっぷりと贅沢に使い、ていねいに仕立てられた服は着込まれるほどに味わいを醸し出し、しかも長持する。そんな感じを作りだしたかったのである。さらに驚くほど価格はリーズナブル。「だって僕たち二人でコンセプトを作ってデザインして仕立て屋さんに交渉して、完成品を自分たちで販売しているわけですから経費はメーカーに比べてスズメの涙。安くできて当たり前」と達夫さんは言う。「自分たちがやりたいことをやりたいようにしているんだから、ファンが増えるのは涙が出るほどうれしいけれども、儲けでビルを建てる気なんてないんですよ」とも。

ロット数の少ないオーダーに応えてくれた生地屋さん、仕立て屋さんにも恵まれた。はじめて二人で作りあげた'93春夏コレクションは、北山通にある「服匠 中西館」をはじめ、市内数ヶ所で順調に売り上げを伸ばしている。現在はさらに中身を充実させた秋冬コレクションを製作中。メンズだけでなく、数組の友達夫婦から熱烈にラブコールされている子ども服にも将来はトライしてみたいとか。そのときには一歳になる愛娘がモデルとして活躍してくれることだろう。

ライター／小林明子

photo by M.OHTA

生地が良くて仕立てが良くて適正価格。
着る人を引き立てる一生もののメンズ服。

仲野達夫 & 真澄

BORN in 1959 & 1963

達夫さんは1959年生まれ。ニューヨークのPARSONS SCHOOLのデザイン課卒業後、NYと日本で企業デザイナーとして活躍のあと渡欧。真澄さんは1963年生まれ。京都芸術短期大学卒業後山野博子氏に師事。企業デザイナーを経て渡仏。'89より㈱NAKANO TMを設立、ともにフリー活動を開始。本業の他に専門学校非常勤講師、コラムニストとしてそれぞれ活躍中。